

町田市の特徴（町田市基本構想・基本計画より）**都心から程近く、広域交通にも恵まれている**

鉄道は JR 横浜線、小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線の 4 路線が通う。町田駅から新宿駅、横浜駅は、共に約 30～40 分程度で結ばれ、町田駅の 1 日の平均乗降人員・乗車人員は小田急小田原線では新宿駅に次ぐ第 2 位、JR 横浜線では第 1 位。

市の南端に東名高速道路の横浜町田インターチェンジがあるほか、国道 16 号や国道 246 号といった広域幹線道路へもアクセスしやすい位置にある。

個性的なお店で買い物や食事を楽しめる「商都町田」

事業所数では「卸売業、小売業」が最も多く 3,082 事業所で、次いで「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」の順となっている。また、従業者数でも、「卸売業、小売業」が最も多く 31,004 人で、次いで「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順となっており、「商都町田」と称されるように、商業の存在感が大きい産業構造となっている。小売業の年間商品販売額は、4,931 億円となっており、多摩 26 市で 2 位である。

「子どもにやさしいまち」としてユニセフも評価

待機児童解消の取り組みや、子どもセンター、冒険遊び場などの子どもの居場所づくりが子育て世帯から評価され、2016 年の年少人口の転入超過数が全国の市区町村(政令指定都市を除く)の中で第 1 位になり、近年、全国上位を維持している。これらに加えて、市民参加型事業評価に高校生を評価人として迎えるなど、市の事業への子どもの参画の取り組みが評価され、(公財)日本ユニセフ協会 CFCI 委員会から「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業実践自治体」として承認されている。

大学や専門学校などが集積した学生のまち

市内や隣接地域に 8 つの大学がキャンパスを設置し、専門学校も 9 校立地しており学生が多い。またこのため 15～19 歳の転入超過数が多いという特性がある。教育・文化のまちを形成するため、町田市を生活圏とする大学などと協力して町田市学長懇談会を開催しており、参加校の学生総数(町田圏域)は約 5 万人にのぼります。

みどりが市域の 28.6%を占め、都市機能と自然環境が共存する

多摩丘陵の北部域に位置し、丘陵域は鶴見川、境川の源流域となっており、都心近郊にありながら豊かな自然環境を有しています。身近な「公園等の都市施設とする緑地」や、生産緑地、風致地区、ふるさとの森に代表される「制度上安定した緑地」、学校や社寺境内地などの「社会通念上安定した緑地」などを含めると、市全体の公緑地面積は 2020 年度で 2,045ha となり、市域の 28.6%を占めています。